



いつの時代も、天下を支配する将軍との関わりが深かった掛川

やま うち かず とよ

山内一豊までの掛川の武将たち

8

今川家・徳川家時代の掛川城郭

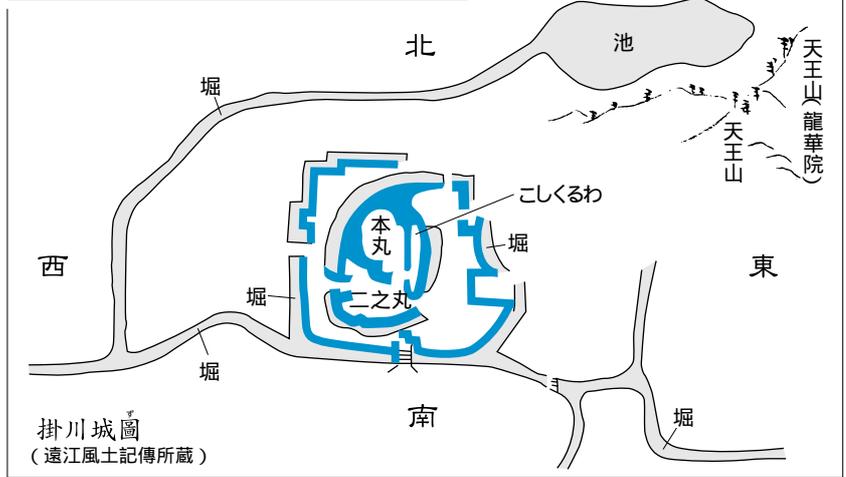
中世都市から近世都市へ
大改造を行った山内一豊

一豊在住の11年間(1590~1600)は、掛川にとって非常に大きな意味を持つ時期でした。今川・徳川時代の城を大規模に改造整備し、中世都市から近世都市へと、飛躍的發展を成し遂げた時代でした。城郭づくりの具体的変化は、大きく三つあり、
天守閣の築造 城郭の大規模化 総構えがあげられます。天守閣の建築は1592年から1596年にわたり行われ、地割りの祈禱が天正19年(1591)ですから、かなりの年数をかけています。城郭の整備は本丸をは

じめ城の核心部は既設のもの修復ですが、新設に近く、二の丸、三の丸が新設され、さらに東北の丘に大きな整備計画がありました。

総構えとは、従来の城郭は城下町の武士以外の者を城内に囲い込まなかったものの、小田原城は町民も城内に囲い込み、長期の持久に耐えたことから、その後各地域にて行われ、掛川城もこれになったようです。大規模な城郭改造の許しが出たのも、関東の家康の抑えを考えてのことと思われる。(山内豊秋 著「掛川から土佐へ」より抜粋)

(監修:掛川市郷土研究会連絡協議会)



掛川城圖
(遠江風土記傳所蔵)



一豊公ゆかりの地

【掛川市西町円満寺】

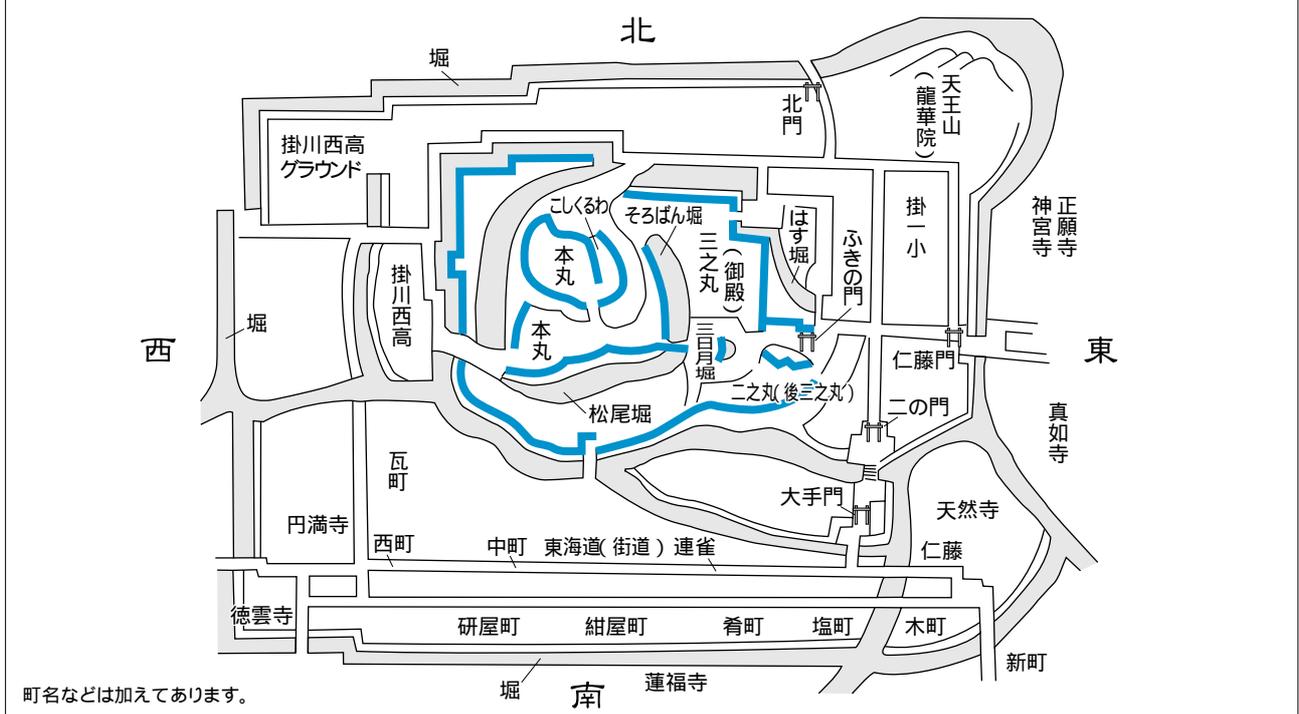
山内一豊が城を改築したとき、防御拠点として城の西側に配置されました。一時土佐へ移った本尊の阿彌陀如来と、一豊公の位牌が祀られています。



山内豊秋 著
「掛川から土佐へ」

山内一豊が整備した掛川城郭

主圖合結記、壹(遠州掛川)
江戸初期(1616~1656年ころ)の兵学図より



町名などは加えてあります。